

はじめに

2005年度の人間科学研究科自己評価書と同年度についての外部評価書を刊行いたしました。このような内容からなる自己評価書は定期的に刊行することとなった昨年度に続いて2年度目のものであります。ただし、内容については多少の手直しを行っており、大学院生の研究活動記録を独立し、各人の成果がより明示的になるようにいたしました。

また、外部評価書は初めてのものであることもあり、試行的な意味を含め、必ずしも一定の書式を設定せず、外部評価委員の方々に委ねたレポートを依頼いたしました。当研究科は、文理の幅広い専攻を含んでおり、その専門性は多岐に渡っております。そこで、この年度の外部評価に際しては、各研究者、研究分野の活動を検討していただくこと旨とし、下記の方々に依頼いたしました。

行動学1 辻 敬一郎氏 (中京大学心理学部長、教授)

行動学2 高木 修氏 (関西大学社会学部教授)

社会学 天野正子氏 (東京女学館大学国際教養部教授)

哲学 伊藤邦武氏 (京都大学大学院文学研究科教授)

人類学 黒田悦子氏 (国立民族学博物館名誉教授)

教育1 田畑 治氏 (愛知学院大学心身科学部長、教授)

教育2 野嶋栄一郎氏 (早稲田大学人間科学学術院長、教授)

教育3 岩井八郎氏 (京都大学大学院教育学研究科教授)

共生学 斎藤清明氏 (総合地球環境学研究所研究推進センター長、教授)

お忙しいところこの評価作業を引き受けていただきましたことに感謝申し上げます。

なお、多岐に渡る作業を推進していただいた委員会委員 (4月末に任期交替) 及び、報告書の編集作業に携わった植村善太郎助手、磯友輝子助手に謝意を表します。

2006年6月

人間科学研究科評価委員会委員長
大坊 郁夫